

エピソード

6.1.6 要石と鹿島神宮

高橋幸雄

VLBIの日本の発祥に地である鹿島は、関東地域の東の端にあり、北米プレート上にあるが、太平洋プレート沈み込みやフィリピン海プレートのもぐり込みの影響で、地殻変動や地震が多い地域でもある。

鹿島局の近くには、鹿島神宮という日本建国・武道の神様である「武甕槌大神」を御祭神とする、神武天皇元年創建の由緒ある神社がある。700年頃の「常陸国風土記」にも記載がある由緒ある神社である。そこには、国宝であり日本最古最大の直刀もあり、鹿島神宮に仕えるト部氏で「鹿島の太刀（たち）」という古くからの剣法の継承者ということで剣豪の塚原ト伝も生まれ育った地でもある。

この鹿島神宮を奥に入っていくと、その先に要石がある（図1）。この要石は、表に出ている部分はほんのわずかであるが、水戸黄門（徳川光圀）が七日七夜掘り続けても底が見える様子がなく、あきらめたといわれるもので、地震を押さえつけている石として、昔から信仰がある。



図1 鹿島神宮にある要石

また、江戸時代の安政の大地震の時に、地震から守るお札として、鹿島神宮の要石をモチーフにしたナマズ絵が描かれた（図2）。

VLBIで、測地VLBI実験を開始し、世界測地網とつながった基準点となり、またプレート運動の実測を初めて行い、地殻変動観測の先駆けとなった鹿島という地に、地震を抑える要石伝説があるというのも、不思議な関係を感じる。



図2 ナマズ絵（地震を抑える要石のお札）
出展 IPA「教育用画像素材サイト」より